

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年11月14日
【四半期会計期間】	第8期第2四半期（自平成29年7月1日至平成29年9月30日）
【会社名】	株式会社アカツキ
【英訳名】	A k a t s u k i I n c .
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 塩田 元規
【本店の所在の場所】	東京都品川区上大崎二丁目13番30号
【電話番号】	03-5422-7757(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経営企画部担当 小川 智也
【最寄りの連絡場所】	東京都品川区上大崎二丁目13番30号
【電話番号】	03-5422-7757(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経営企画部担当 小川 智也
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第7期 第2四半期 連結累計期間	第8期 第2四半期 連結累計期間	第7期
会計期間	自平成28年4月1日 至平成28年9月30日	自平成29年4月1日 至平成29年9月30日	自平成28年4月1日 至平成29年3月31日
売上高 (千円)	4,421,512	10,227,066	11,547,684
経常利益 (千円)	1,697,926	5,005,351	4,601,498
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (千円)	1,173,812	3,614,200	3,291,803
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	1,168,336	3,615,124	3,265,363
純資産額 (千円)	8,506,618	14,248,559	10,524,887
総資産額 (千円)	12,336,087	22,411,758	16,259,993
1株当たり四半期(当期)純 利益金額 (円)	86.74	266.18	243.11
潜在株式調整後1株当たり四 半期(当期)純利益金額 (円)	80.77	247.46	226.68
自己資本比率 (%)	68.6	63.5	64.7
営業活動によるキャッシュ・ フロー (千円)	1,460,151	2,845,444	3,895,252
投資活動によるキャッシュ・ フロー (千円)	960,996	760,359	1,786,772
財務活動によるキャッシュ・ フロー (千円)	1,864,307	2,171,424	2,503,697
現金及び現金同等物の四半期 末(期末)残高 (千円)	8,679,269	15,204,890	10,962,656

回次	第7期 第2四半期 連結会計期間	第8期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成28年7月1日 至平成28年9月30日	自平成29年7月1日 至平成29年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	45.78	147.60

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第7期及び第8期第2四半期連結累計(会計)期間の「1株当たり四半期(当期)純利益金額」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額」の算定上、株式給付信託(J-ESOP)により信託口が保有する当社株式を「普通株式の期中平均株式数」において控除する自己株式に含めております。

## 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の連結子会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、前連結会計年度において連結子会社でありましたクリームフィールド株式会社は、重要性が乏しくなったため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、海外景気や個人消費の回復を背景に、企業の景況感は幅広い業種で改善が見受けられ、地政学的リスクへの懸念はあるものの、景気は緩やかな回復基調で推移しております。

当社グループが属するモバイルゲーム業界を取り巻く環境については、携帯電話契約数が、平成29年3月末時点において1億6,273万回線と増加（出典：株式会社MM総研「国内MVNO市場規模の推移（2017年3月末）」）するとともに、国内のスマホゲーム市場規模はメーカー売上金額ベースで、2016年度が前年度比102.2%の9,450億円と引き続き成長しております。また、2017年度の国内のスマホゲーム市場規模につきましても、同101.6%の9,600億円と安定的な成長が予測されております。（出典：株式会社矢野経済研究所「スマホゲーム市場に関する調査を実施（2016年）」）

このような環境の中、当社グループは、既存タイトルの拡大と新規タイトルの投入に注力してまいりました。当第2四半期連結累計期間においても継続してネイティブアプリの開発及び運用に経営資源を集中しており、順調にユーザー数が増加しております。特に、株式会社バンダイナムコエンターテインメントとの協業タイトルである「ドラゴンボールZ ドッカンバトル」については、平成29年9月末時点において国内外累計で2億ダウンロードに達しており、既存タイトルが良好に推移いたしました。また、新規タイトルについては、当社グループが開発したオリジナルタイトルである「八月のシンデレラナイン」を6月にリリースするとともに、当第2四半期連結会計期間の8月には、株式会社バンダイナムコエンターテインメントとの共同開発タイトルである「アイドルマスター SideM LIVE ON ST@GE!」をリリースしており、順調に推移しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高10,227,066千円（前年同期比131.3%増）、営業利益5,046,629千円（同185.7%増）、経常利益5,005,351千円（同194.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益3,614,200千円（同207.9%増）となっています。

なお、当社グループは、全セグメントに占める「モバイルゲーム事業」の割合が高く、開示情報としての重要性が乏しいことから、セグメントごとの記載を省略しております。

#### (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の残高は、前連結会計年末に比べ4,242,233千円増加し、15,204,890千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

##### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において、営業活動の結果得られた資金は2,845,444千円となりました（前年同期は1,460,151千円の収入）。これは主に、売上債権の増加額1,323,993千円及び法人税等の支払額953,111千円があった一方で、売上増加に伴い税金等調整前四半期純利益5,005,351千円の計上があったことによるものであります。

##### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において、投資活動の結果支出された資金は760,359千円となりました（前年同期は960,996千円の支出）。これは主に、増床等に伴う有形固定資産の取得による支出139,395千円やソフトウェア開発に伴う無形固定資産の取得による支出153,120千円、株式会社そとあそび株式の追加取得等による子会社株式の取得による支出398,010千円が発生したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において、財務活動の結果得られた資金は2,171,424千円となりました(前年同期は1,864,307千円の収入)。これは主に、既存の長期借入金の返済による支出304,657千円があった一方で、新規の長期借入れによる収入500,000千円や社債発行による収入1,971,890千円の計上があったことによるものであります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針、経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における研究開発費は、1,186,858千円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	45,090,400
計	45,090,400

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成29年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成29年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	13,601,700	13,644,000	東京証券取引所 市場第一部	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	13,601,700	13,644,000	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成29年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
平成29年7月1日～ 平成29年9月30日	-	13,601,700	-	2,719,172	-	2,718,172

(注)平成29年10月1日から平成29年10月31日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が42,300株、資本金及び資本準備金がそれぞれ2,567千円増加しております。

( 6 ) 【大株主の状況】

平成29年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
塩田 元規	東京都港区	3,470,000	25.51
株式会社サンクピア	東京都品川区上大崎2丁目13番30号	2,200,000	16.17
香田 哲朗	東京都渋谷区	1,530,000	11.25
株式会社Owl Age	東京都品川区上大崎2丁目13番30号	1,100,000	8.09
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG(FE-AC) (常任代理人 株式会社三菱東京 UFJ銀行)	PETERBOROUGH COURT 133 FLEET STREET LONDON EC4A 2BB UNITED KINGDOM (東京都千代田区丸の内2丁目7番1 号)	310,136	2.28
資産管理サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8番12号	243,800	1.79
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6番1号	219,800	1.62
グロービス4号ファンド投資事業有 限責任組合	東京都千代田区二番町5番1号	188,500	1.39
楽天証券株式会社	東京都世田谷区玉川1丁目14番1号	164,500	1.21
株式会社リンクアンドモチベーショ ン	東京都中央区銀座6丁目10番1号	135,500	1.00
計	-	9,562,236	70.30

(注) 上記株式数のうち、信託業務に係る株式数は以下のとおりであります。

資産管理サービス信託銀行株式会社 243,800株

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成29年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 13,595,500	135,955	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。なお、単元株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 6,200	-	-
発行済株式総数	13,601,700	-	-
総株主の議決権	-	135,955	-

(注) 単元未満株式欄には、当社所有の自己株式57株が含まれております。

【自己株式等】

平成29年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

(注) 1. 上記以外に自己名義所有の単元未満株式57株を保有しております。

2. 株式給付信託(J-ESOP)により信託口が保有する当社株式18,416株は、自己株式に含めておりません。なお、当該信託口が所有している当社株式は、四半期連結財務諸表において自己株式として表示しております。

2【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成29年7月1日から平成29年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	11,062,656	15,304,890
売掛金	2,807,580	4,131,507
その他	151,337	190,667
流動資産合計	14,021,574	19,627,065
固定資産		
有形固定資産	350,311	466,023
無形固定資産		
ソフトウェア	264,125	322,181
のれん	673,044	818,133
無形固定資産合計	937,169	1,140,314
投資その他の資産	950,937	1,178,356
固定資産合計	2,238,418	2,784,693
資産合計	16,259,993	22,411,758
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	141,709	286,738
短期借入金	18,477	-
1年内返済予定の長期借入金	525,984	625,980
未払法人税等	1,053,796	1,449,765
賞与引当金	132,815	-
株式給付引当金	24,550	12,275
その他	1,200,003	1,046,210
流動負債合計	3,097,335	3,420,969
固定負債		
社債	1,000,000	3,000,000
長期借入金	1,632,717	1,728,064
その他	5,053	14,166
固定負債合計	2,637,770	4,742,230
負債合計	5,735,105	8,163,199
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,719,172	2,719,172
資本剰余金	2,718,172	2,718,172
利益剰余金	5,182,377	8,852,396
自己株式	99,864	70,526
株主資本合計	10,519,856	14,219,214
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	1,881	2,806
その他の包括利益累計額合計	1,881	2,806
新株予約権	3,149	26,539
純資産合計	10,524,887	14,248,559
負債純資産合計	16,259,993	22,411,758

( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

( 単位 : 千円 )

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成28年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成29年 4 月 1 日 至 平成29年 9 月30日)
売上高	4,421,512	10,227,066
売上原価	1,352,278	2,337,035
売上総利益	3,069,233	7,890,031
販売費及び一般管理費	1,303,018	2,843,402
営業利益	1,766,215	5,046,629
営業外収益		
受取利息	376	502
受取補償金	-	50,000
その他	1,670	819
営業外収益合計	2,046	51,321
営業外費用		
支払利息	2,395	11,004
社債発行費	-	28,109
上場関連費用	-	24,870
為替差損	33,992	14,401
賃貸費用	32,385	10,736
その他	1,561	3,477
営業外費用合計	70,335	92,599
経常利益	1,697,926	5,005,351
特別損失		
本社移転費用	100,921	-
特別損失合計	100,921	-
税金等調整前四半期純利益	1,597,004	5,005,351
法人税等	420,252	1,391,150
四半期純利益	1,176,752	3,614,200
非支配株主に帰属する四半期純利益	2,940	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,173,812	3,614,200

【四半期連結包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
四半期純利益	1,176,752	3,614,200
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	8,415	924
その他の包括利益合計	8,415	924
四半期包括利益	1,168,336	3,615,124
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,165,396	3,615,124
非支配株主に係る四半期包括利益	2,940	-

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,597,004	5,005,351
減価償却費	37,596	104,187
のれん償却額	10,664	154,921
本社移転費用	100,921	-
受取利息及び受取配当金	376	502
支払利息	2,395	11,004
社債発行費	-	28,109
為替差損益(は益)	29,716	14,401
賞与引当金の増減額(は減少)	-	132,815
株式給付引当金の増減額(は減少)	-	12,275
売上債権の増減額(は増加)	81,243	1,323,993
その他の資産の増減額(は増加)	117,454	47,103
仕入債務の増減額(は減少)	47,828	144,358
その他の負債の増減額(は減少)	69,414	167,406
その他	4,946	30,821
小計	1,936,323	3,809,058
利息及び配当金の受取額	376	502
利息の支払額	2,395	11,004
法人税等の支払額	474,152	953,111
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,460,151	2,845,444
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	240,335	139,395
無形固定資産の取得による支出	241,609	153,120
投資有価証券の取得による支出	74,910	69,832
子会社株式の取得による支出	176,937	398,010
貸付けによる支出	40,000	-
敷金及び保証金の差入による支出	196,225	-
敷金及び保証金の回収による収入	8,962	-
その他	60	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	960,996	760,359
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	-	18,477
長期借入れによる収入	2,000,000	500,000
長期借入金の返済による支出	135,694	304,657
社債の発行による収入	-	1,971,890
新株予約権の発行による収入	-	23,390
その他	1	721
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,864,307	2,171,424
現金及び現金同等物に係る換算差額	37,206	13,477
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	2,326,255	4,243,032
現金及び現金同等物の期首残高	6,353,013	10,962,656
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	-	798
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,679,269	15,204,890

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

クリームフィールド株式会社は重要性が乏しくなったため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
研究開発費	448,550千円	1,186,858千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
現金及び預金勘定	8,779,269千円	15,304,890千円
預入期間が3か月を超える定期預金	100,000	100,000
現金及び現金同等物	8,679,269	15,204,890

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報等】

当社グループは、全セグメントに占める「モバイルゲーム事業」の割合が高く、開示情報としての重要性が乏しいことから、セグメント情報の記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	86円74銭	266円18銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	1,173,812	3,614,200
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	1,173,812	3,614,200
普通株式の期中平均株式数(株)	13,532,143	13,578,264
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	80円77銭	247円46銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	999,876	1,026,793
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 株式給付信託(J-ESOP)により信託口が保有する当社株式を、「1株当たり四半期純利益金額」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額」の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めておりません(前第2四半期連結累計期間-株、当第2四半期連結累計期間23,379株)。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年11月14日

株式会社アカツキ  
取締役会 御中

### 有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山本 守 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 杉山 勝 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アカツキの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成29年7月1日から平成29年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アカツキ及び連結子会社の平成29年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。